

## 6. 主なモニタリング調査と成果

### (1) 沿岸漁海況に関する調査

○調査目的 水産資源の合理的利用と操業の効率化を図る。

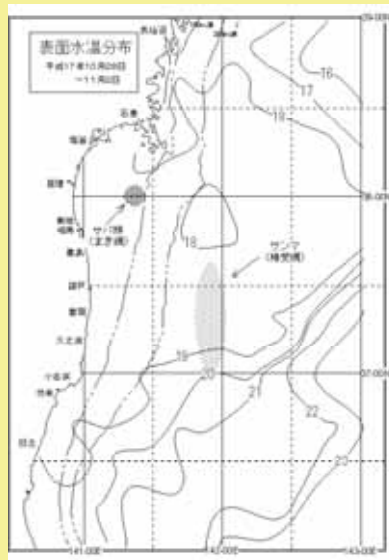
○調査内容 塩屋埼等の3定線について、沖合75哩までの沿岸27定点、200哩までの沖合11定点の定期海洋観測。

他の機関の観測情報の収集。

○主な成果 産地市場の漁況情報を併記、毎週金曜日に「漁海況速報」を発行。

○現在の活用状況 関係機関に郵送、水試のHPに掲載、地方紙にも掲載される。

また、蓄積したデータを海況予測（自己回帰モデル）、来遊資源量等の漁況予測資料に活用。



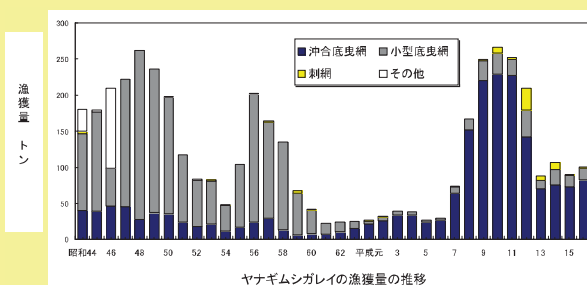
### (2) 海面漁業漁獲高統計に関する調査

○調査目的 水産資源動向、漁獲実態を把握する。

○調査内容 産地市場、漁法、魚種、月別の水揚数量と金額。

○主な成果 「統計年報（属地）」を発行。

○現在の活用状況 「福島県主要魚種の漁獲推移」を発行。資源管理、資源動向の検討、解析資料に活用。



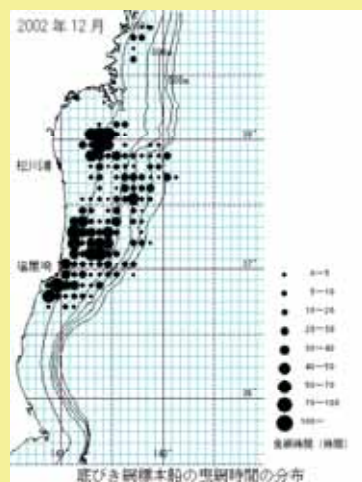
### (3) 沿岸漁業の操業日誌に関する調査

○調査目的 漁場分布、CPUE等の資源動向把握。

○調査内容 船曳網、刺網、底曳網操業の日時、位置、魚種別漁獲量の情報収集（標本船計74隻 抽出率約8%）。

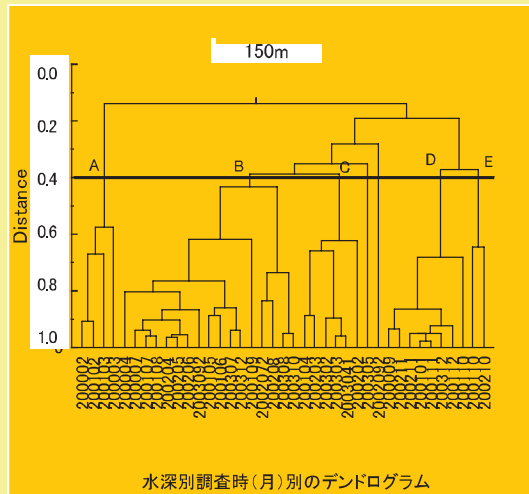
○主な成果 水試のデータベースに保存。

○現在の活用状況 水産資源の動向や操業実態の把握、資源管理検討の資料に活用。



(4) 定点トロールに関する調査

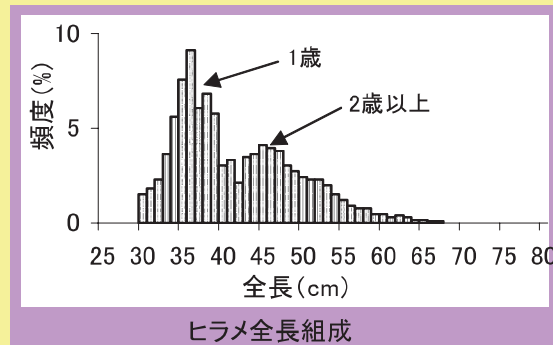
- 調査目的 主要底魚類の資源動向を把握する。
- 調査内容 塩屋埼沖水深 100、150、175、300、500m の 5 定点 30 分曳網。
- 主な成果 データベースに保存。ヤナギダコ、マダラ等 7 魚種の資源動向を水試の HP に掲載。
- 現在の活用状況 主要底魚資源量の経年比較、資源動向の予報に活用。



水深別調査時(月)別のデンドログラム

(5) ヒラメ放流効果に関する調査

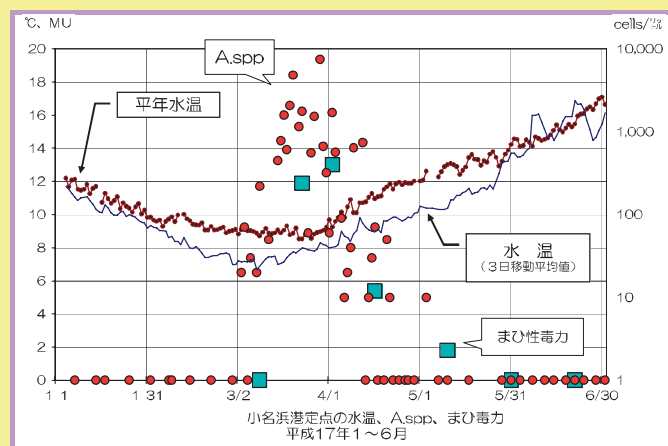
- 調査目的 放流効果をモニタリングする。
- 調査内容 主要産地市場の魚体調査から、放流年級群別、漁業種別に漁獲尾数と漁獲金額を推定(月間、累計)。同様に、天然魚について推定。
- 主な成果 「ヒラメ情報」を発行。水試 IIP にも掲載。
- 現在の活用状況 経済効果指数の推定、放流技術の検討資料に活用。



ヒラメ全長組成

(6) 貝毒被害防止に関する調査

- 調査目的 貝類毒化対策と監視体制の確立に資する。
- 調査内容 貝毒原因プランクトンの出現状況、ムラサキガイの毒力の定期検査。
- 主な成果 平成 16 年の出荷自主規制勧告は、3 / 11 ~ 6 / 4 (麻痺性)、7 / 16 ~ 9 / 17 (下痢性)。
- 現在の活用状況 同様な機構で毒化するトゲクリガニを含めた被害防止のための監視及びその確立に資料を活用。



小名浜湾定点の水温、A.spp、まひ毒力  
平成17年1~6月